■安積中学校■安積高等学校在京同窓生

# 東京桑野会会報

●昭和57年4月1日発行●発行人・壁谷裕之●編集人・石川照雄●発行所・東京桑野会事務局＝東京都中央区銀座7-13-6林ビル5階武藤一弁法律事務所内●デザイン・制作・㈱東京クリエイティブセンター●

1

## 東京桑野会会報によせて

東京桑野会会長
31期卒　壁谷裕之

桑野会創立当時から、名簿作成と会報発行の二つは会の発展の上から、幹事の使命として考慮していたことである。名簿は曲りなりにも、つくりはしたが、これは毎年か隔年には改訂しなければならず、会報は親睦や連絡にも刊行せねばならぬものであり、本会創立当時、いや戦前、戦中、戦後から要望されたことであった。戦前早大内の校友会に中桐確太郎、遊佐慶夫教授等から、また一般から丹治禮三、橋本万之介、久米三汀（正雄）寺田国郎、神尾　茂、永戸政治先輩等から希望されていた懸案でもあって、いつも会合があると意見が出ていた。それにはまづ名簿が先と、元会長の故三沢敬義医師時代に仮りの名簿をつくったり、本部と連絡したりして、やり出したこととあったが、今度のように本式に乗り出したことはなかった。会報は初回の計画でもあり、会員の協力で育て上げてゆきたいものだ。陣痛の時代は過ぎた先輩、同志の熱意に充分応えてゆこうではありませんか。

## 中学時代の思い出

東京桑野会副会長
37期卒　今泉兼寛

大正８年入学、大正13年卒業、５年間の思い出は尽きないものが多々あるが、就中印象に深いのが旧師に対する思い出である。

校長の木村先生（綽名バルチザン）は、風格高く歯切れのよい訓話をされる名校長であった。

教頭の今村先生（綽名デカン）は数学担当で、代数幾何の明解な講議には定評があった。

漢文担当は大場先生で、孔孟の教へ漢詩の解釈等一流の名講議振りが今も目に映る。

英語担当は有名な母校先輩の菊池先生（愛称沖チャン又はオンケル）で、一語一語噛んで含める様な名調子と酒脱を交へたシャレを飛ばされるので有名であった。俳句の宗匠としても名高く、御手紙の返事にも必ず毎度一句物された方であった。後年私が横浜税関長で赴任した時は、既に母校を勇退され、横浜磯子に奥さんと二人で静かに晩年を過して居られたが、同期生の伊藤仲男君（当時横浜市中区区長）と一緒に御訪ねして酒を酌み交し乍ら思い出の数々を伺ったものであった。母校安積の為に一生を捧げられた名教師で母校の歴史的存在である。

## 本会に全力を尽します

東京桑野会副会長
42期卒　澤田　悌

最近東京桑野会の若い会員の間に、本会活動を益々活発にし、会友にとって一層楽しくかつ有意義なものにしたいという気運が盛り上って来たことは、たいへん嬉しく又心強いことです。そして毎年の総会を更に充実させ、会報をも創刊することになったことはご同慶の至りに思います。

ご承知のように、安積中学は明治17年に福島市において、福島中学校として開校されたが、その後曲折あり、明治22年３月に安積郡桑野村に移転して今日に至ったのであって、〝桑野〟という名称は、卒業年次の古い先輩程なつかしいものであるようです。しかし創立80周年記念号の安積野誌によると、母校の所在地は郡山市南町75番地となっており、「安積90年のあゆみ」によると、郡山市開成立－25－63となっている。もう桑野という地名は実在しなくなったのかも知れないが、各地の同窓会が桑野会と称しているように、わが東京桑野会も、なつかしい桑野の名のもとに益々発展してゆきますように、新任副会長として全力を尽します。どうぞよろしく。

# 母校よりの便り

安積高等学校校長

## 高橋幸一

東京桑野会のみなさん、お元気でご活躍のこととおよろこび申し上げます。母校安積高校は、あと２年で創立100年を迎えます。全国に、名門校、伝統校は数多くありますが、旧制中学・高校の名残りをとどめる極めてまれな学校として評価され、全国からの見学、訪問が絶えません。

教育の荒廃や、高校の予備校化がいわれるなかで、クラブ活動や生徒会活動に、安積の歴史を貫く「開拓精神」を、身をもって実践し、受験戦争という現実をのりこえ、より人間らしく、青春を生き抜こうとする生徒諸君が、実に多いことを誇りにおもいます。一例をあげれば、昨年の春は、生徒会長が京大に、サッカー部の主将が、須賀川から３ヶ年無欠席で自転車で通学しながら、東北大法科に、みな現役で入りました。こうしたことは、めずらしいことではありません。

先生方も、勉強はきびしくやりますが、あとは、あまりこまかいことを言わず、規制などもしません。それでいて、何かことがあると、校旗・校歌のもとに、たちどころに団結します。校舎内外も実にきれいで、よそから来られたかたは、男子校とは思えない、美しさがあるといわれます。明日試験があっても、今日野球の試合があれば、みな球場に応援にかけつける様子は、いまは殊に進学校などでは見られない風景とおもいます。

昨年夏の甲子園大会、福島県予選では、29年ぶりで決勝に進出しました。このことについて、東京の卒業生からおたよりをいただきました。県大会の結果を新聞みながら、決勝進出が決まると、じっとしていられず、平球場までかけつけた。そこでみたのは、在校生、ＯＢ、父兄など、ざっと3,000人の一体となったすさまじいまでのエネルギーと、怒濤のような応援だった。生徒にきくと、きのうまでは、開盛山球場だったので、連日、課外授業をやりながらの応援だったが、今日一日は課外も休み、都合のつく生徒と先生は全員来ているのではないかということだった。試合には負けたけれども、いまなお安積健在なりと、無上のよろこびと満足感をもって帰京したという文面でした。

安積高校の近況の一端をお知らせしましたが、これからも、どうぞ、母校および後輩のために、一層のご指導とご援助を賜わりますようお願いしますとともに、先輩各位のご発展を、心よりお祈り申し上げます。

# ご挨拶

安積桑野会会長

## 滝田元二

東京桑野会の皆さん益々お元気で活躍のことと存じます。この度は会報の発刊おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

私が桑野会会長の大役をお受けして５年になりますが、その間の皆さんの絶大なるご協力に心から感謝を申し上げます。

ご承知のように、わが母校の旧本館は修復工事をすべて完了し、安積原頭に昔日の堂々たる「桑野御殿」の威容を再現して居ります。前に立ち、静かに眼を閉じると、この原野の学舎に夢を馳せて集い学んだ幾多の先輩の意気を感じ心騒ぐものを覚えます。どうぞ皆さんも一度ご覧になって下さい。

明治17年９月、県下のトップをきって開校した我等が母校も昭和59年の９月には満100歳を迎えようとして居ります。この千載一遇の時に当り、無為無策に過ごしては多数の先輩に申し訳がありません。将来の後輩のためにも是非何かを為し遂げたいと思うのは同窓生皆さんの意見でもあり、希望でもあると存じます。全国津々浦々に活躍する我等安積の同窓生はこの100周年の大盛典にエネルギーを結集してゆきたいと存じます。

どうか来るべき年には、奮ってご協力をお願い致しますと同時に色々とご意見ご希望等を本部へご被見賜わりたいと存じます。

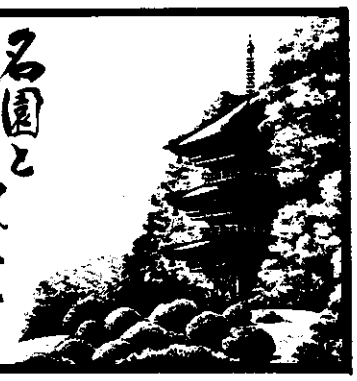
東京桑野会の益々のご隆盛と会員皆々様のご健勝を心からお祈り申し上げ御祝いをかねてご挨拶といたします。

# 会報創刊号に寄せて

東京桑野会顧問

## 佐藤喜一

私は大正15年３月卒業の38期生である。あれから57年も経ったわけで、従って母校も間もなく創立100年を迎える事になる。過ぎてみれば、凡ては一朝の夢でしかないが安中時代を回顧す


四季おりおり美しく変化する。
八千余りの樹木が
心をなごませる代表的な日本庭園。
都会生活の大きな憩いの場です。
ご婚礼・お食事・ご宴会に
ご利用ください。

ご婚礼
洋食・和食・立食

お食事
●グリルみゆき（和食）
●グリルカメリア（洋食）
●開山堂（椿山荘バーベキュー）

●交通
●地下鉄有楽町線江戸川橋駅より徒歩10分
●目白駅から新宿西口行都バス関口三丁目下車

椿山荘 CHINZAN-SO
4月の桜に囲まれた
☎03(943)1111 東京都文京区関口2-10-8

後援会会長
竹花則栄（35期生）

れば何もかもが懐しい。4年生の時である。慣例により裏日本から関西、東京方面への一週間の修学旅行があった。勿論私も参加した。先輩から修学旅行の楽しさを聞かされていた。東京が最後になったのであるが、果せるかな東京桑野会より招待され、東京会館で先輩に囲まれて初めて西洋料理のコースをご馳走になった。当時の学生にはコーヒーさえ珍らしい時である。100人からの生徒を一流のレストランに招待するのである。その規模と財力とは学生の心を圧倒するのには充分であった。そして先輩は偉いんだなあ、自分も先輩にならわなければと心に契ったものである。これが東京桑野会に対する私の貴重な印象である。

翻って、戦後の東京桑野会を思う時四散した会員を探しての再結成は敗戦と言う国家の隆替興亡のきびしい時代であった世に、そのご苦労も推察され初代水戸会長、2代三沢会長を中心に再建に尽力された諸兄に満腔の敬意を表したい。

私が桑野会員になったのは三沢会長の時からで3代の壁谷現会長就任の際斉藤純先輩と共に副会長に押され後、今泉副会長と共に壁谷会長を中心に渡部武文幹事長、吉田啓、土屋七郎、池田利男幹事諸兄等のご協力のもとに昭和41年と47年に名簿を作製し会の発展を企画したが、戦後の学制改革による高校卒業生の増加が多く容易にこれを把握し得なかった。そこで昭和55年の大会に於て規約の一部を改正し、大幅な幹事の増員を行い幹事長を中心に幹事会を構成し、若いエネルギーの活用とその機動力とによって、会の一段の飛躍発展を図る事とした。尚、56年の総会に於て尊敬する後輩沢田悌君に副会長をバトンタッチし、発展すべき今後の会のリーダーたる事をお願いした。

今や母校の創立100年を間近に控え東京桑野会の一大飛躍の前程として、茲に東京桑野会々報を創刊する運びになった事は会の発展上誠に慶びに耐えない次第である。

## 東京桑野会同窓会に参加を

事務局庶務部会担当

57期卒　土屋七郎

昭和59年には母校も、創立100周年を迎えようとしております。旧安積中学、安積高校出身者で組織する同窓会は、安積桑野会を本部として各地に支部を設け、母校の発展と会員相互の親睦を目的として、活躍しております。

東京地区は都内及近県在住者を対象に、東京桑野会が戦前から組織されて活動して参りました。長い歴史の間には、戦前のような華々しい活動期もあり、又戦後の一時期にも在京学生を招待して先輩が後輩にご馳走を振舞ったり、就職の世話をする等積極的な会の活動も見られたのですが、その後一進一退を繰返すのみで、新しい若い会員層の参加が少なく残念に思います。

何分高校卒業者は毎年相当数の大学進学者を出し、やがて社会人となる訳ですから、それらの若い人達の参加が無ければ、東京桑野会の発展はありません。然しながら、これには同窓会そのものに魅力がなければ、卒業生全員参加を呼びかけても、無理な事は当然です。魅力ある同窓会の運営を計るため新執行部は、庶務、事業、名簿、会計、広報の5部会と、特別部会として100周年記念事業事務局を設置し、東京桑野会員新名簿の発行、定期的な東京桑野会々報の発刊、その他職業、趣味を通じての会員相互交流のゴルフ等々、或いは新卒者の就職相談等あらゆる面での、企画を立案し実行いたしたいと考えております。

その第一弾として、東京桑野会々報創刊号を発刊いたしました。続いて会の新名簿も発行する予定になっております。

在京者の住所確認済の皆様には全員もれなく総会通知状その他すべてご連絡いたします。尚会の発展的な運営上年会費1,000円を申し受ける事になりましたので、何卒事情ご賢察の上、ご送金賜ります様御願い申し上げます。

名簿発行準備のため、全員の方々に御返事下さる様御待ち申し上げます。日時のご都合で、総会にご出席出来ない方も、通信欄に近況等を書き入れてご連絡下されば幸甚です。

東京桑野会の現状では、母校100周年記念事業に対する協力態勢は整いません。そこで会の充実と組織拡大を計り「七州の霸と謳はれし栄誉ある歴史」と伝統の母校記念事業を大成功させると供に、会員相互のますますの発展と幸福のため、東京桑野会に積極的なご参加を呼びかける次第です。
特に高卒者の奮起を切望いたします。

■電気設備設計施工■

株式会社

渡辺電務社

=本社=●東京都江東区三好1-1-2●電話:03-641-0136(代)●〒135●=営業所=●千葉県千葉市都町2-5-1電話:0472-31-9287●〒280●

□代表取締役社長 渡辺豊定(58期卒) □常務取締役 土屋七郎(57期卒) □工事長 橋本順光(69期卒)

# いま後輩はこのように進学しています

●昭和56年度までの卒業生数●

| | | |
|---|---|---|
| 1．安積中学校卒 | 明治22年3月 第1回より<br>昭和24年3月 第61回まで | 5,918名 |
| 2．県立安積高校併設中学校卒 | 昭和23年3月 第1回より<br>昭和24年3月 第2回まで | 684名 |
| 3．安積高等学校卒 | 昭和24年3月 第1回より<br>昭和56年3月 第33回まで | 12,587名 |
| 計 | | 19,189名 |

●最近5ヵ年間の安積高等学校卒業者の大学進学状況●

| | | 56年3月 | | 55年3月 | | 54年3月 | | 53年3月 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 現 | 浪 | 現 | 浪 | 現 | 浪 | 現 | 浪 |
| 国立 | 北海道大 | 1 | 2 | 2 | 2 | | 2 | 1 | 1 |
| | 岩手大 | 2 | 4 | 14 | 3 | 4 | 1 | 6 | |
| | 新潟大 | 8 | 4 | 17 | 7 | 6 | 3 | 16 | 3 |
| | 千葉大 | 3 | 1 | 2 | 2 | 2 | 4 | 7 | |
| | 東北大 | 22 | 9 | 20 | 10 | 17 | 8 | 19 | 13 |
| | 東京大 | 4 | 2 | 1 | 5 | 1 | 5 | 4 | 1 |
| | 一橋大 | | 1 | | | | 1 | 2 | 3 |
| | 東京工業大 | 1 | 1 | | | 3 | 1 | | |
| | 筑波大 | 5 | | 2 | | 6 | 2 | 1 | 2 |
| | 京都大 | 1 | | 1 | | | 1 | | |
| | 山形大 | 13 | 7 | 16 | 12 | 11 | 3 | 15 | 4 |
| | 秋田大 | | | 4 | | 2 | | | 1 |
| | 福島大(経) | 16 | 14 | 21 | 3 | 16 | 4 | 20 | 8 |
| | 〃 (教) | 40 | 12 | 25 | 12 | 16 | 13 | 17 | 7 |
| | 茨城大 | 7 | 2 | 7 | 2 | 3 | | 5 | 2 |
| | 宇都宮大 | 5 | 1 | 4 | | 3 | 3 | 6 | |
| | 埼玉大 | 2 | 2 | 3 | 3 | 4 | | 2 | 5 |
| | 群馬大 | | | 1 | 1 | | | 2 | |
| | 東京外語大 | | | | | | | | |
| | 東京農工大 | | 1 | 2 | 2 | | | | 1 |
| | 東気通信大 | | 1 | 3 | | 2 | 1 | | 3 |
| | 横浜国立大 | | | 1 | 1 | 3 | | 3 | 1 |
| | 弘前大 | | 2 | 1 | | | | | 1 |
| | その他 | 6 | 3 | 5 | 5 | 3 | 7 | 4 | 4 |
| | 小計 | 134 | 78 | 152 | 67 | 102 | 59 | 130 | 60 |
| | | 212 | | 219 | | 161 | | 190 | |
| 公立 | 福医大 | 2 | 10 | 6 | 7 | 5 | 6 | 1 | 6 |
| | 高崎経済大 | 4 | 1 | 5 | 3 | 6 | 1 | 6 | 3 |
| | 横浜市大 | | 1 | | 2 | 1 | | 1 | 2 |
| | 東京都立大 | 2 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | 3 | 2 |
| | その他 | | 4 | 4 | 1 | | 2 | 1 | |
| | 小計 | 8 | 17 | 17 | 17 | 13 | 10 | 12 | 13 |
| | | 25 | | 34 | | 23 | | 25 | |
| 国公立合計 | | 142 | 95 | 169 | 84 | 115 | 69 | 142 | 73 |
| | | 237 | | 253 | | 184 | | 215 | |

| | | 56年3月 | | 55年3月 | | 54年3月 | | 53年3月 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 現 | 浪 | 現 | 浪 | 現 | 浪 | 現 | 浪 |
| 私立 | 青山学院大 | 5 | 5 | 11 | 10 | 11 | 9 | 10 | 11 |
| | I. C. U. | | | | 1 | | | | |
| | 岩手医科大 | | 4 | | 3 | | 2 | | 2 |
| | 学習院大 | 2 | 7 | 2 | 5 | 5 | 5 | 4 | 2 |
| | 神奈川大 | 9 | 2 | 14 | 8 | 12 | 6 | 20 | 7 |
| | 慶応大 | 6 | 7 | 10 | 8 | 9 | 18 | 7 | 10 |
| | 駒沢大 | 8 | 12 | 8 | 9 | 8 | 9 | 2 | 6 |
| | 工学院大 | 3 | | 4 | 3 | 1 | 1 | 5 | 2 |
| | 国学院大 | 2 | 6 | 1 | 10 | 4 | 4 | 9 | 3 |
| | 上智大 | 6 | 5 | 7 | 2 | 3 | 5 | 6 | 3 |
| | 芝浦工大 | 4 | 3 | 5 | 3 | 2 | 2 | 5 | 1 |
| | 自治医大 | | | | | | | 2 | |
| | 専修大 | 11 | 12 | 6 | 6 | 8 | 4 | 14 | 9 |
| | 成蹊大 | 2 | 3 | 4 | 6 | 4 | 4 | 9 | 2 |
| | 同志社大 | 3 | 9 | | 2 | 1 | 3 | 2 | 3 |
| | 東洋大 | 5 | 2 | 10 | 7 | 6 | 6 | 8 | 5 |
| | 東北歯科大 | 2 | | | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 |
| | 東北学院大 | 1 | 4 | 5 | 10 | 11 | 6 | 3 | 4 |
| | 東北薬科大 | 1 | | 3 | | 3 | 1 | 2 | 1 |
| | 東京理科大 | 6 | 16 | 9 | 12 | 9 | 14 | 16 | 15 |
| | 東京経済大 | 2 | 9 | 6 | 4 | 11 | 6 | 10 | 8 |
| | 東京電機大 | 3 | 1 | 4 | 2 | 1 | 1 | 7 | 5 |
| | 東海大 | 16 | 3 | 11 | 3 | 8 | 5 | 15 | 5 |
| | 日本体育大 | | | 1 | | | | 1 | |
| | 日本大(除工) | 21 | 19 | 22 | 12 | 35 | 13 | 39 | 17 |
| | 〃 (工) | 21 | 1 | 35 | 5 | 31 | 1 | 28 | 3 |
| | 中央大 | 28 | 19 | 16 | 14 | 7 | 23 | 20 | 28 |
| | 法政大 | 16 | 16 | 16 | 21 | 14 | 10 | 24 | 16 |
| | 武蔵工大 | 3 | 3 | 5 | 2 | | 3 | 1 | 1 |
| | 明治学院大 | | | | 2 | 2 | 2 | 4 | |
| | 明治大 | 29 | 29 | 10 | 16 | 20 | 27 | 30 | 17 |
| | 立命館大 | 2 | 2 | 2 | 1 | 4 | 6 | | 2 |
| | 立教大 | 2 | 9 | 3 | 7 | 2 | 3 | 4 | 9 |
| | 早稲田大 | 10 | 31 | 6 | 15 | 12 | 29 | 8 | 17 |
| | その他 | 39 | 55 | 41 | 43 | 31 | 16 | 55 | 26 |
| 私大合計 | | 272 | 294 | 277 | 253 | 276 | 256 | 371 | 242 |
| | | 566 | | 530 | | 532 | | 613 | |
| 防衛大学 | 防衛大学校 | | 2 | 2 | | 4 | | 1 | 1 |
| | 防衛医科大学校 | | | 1 | | | | | 1 |
| | その他 | | 1 | | | 1 | | 1 | |
| 短期大学 | | 3 | | | | | 1 | 3 | 1 |
| 各種学校 | | 5 | 2 | 9 | 3 | 4 | 1 | 3 | |
| 総計 | | 422 | 394 | 458 | 340 | 400 | 327 | 521 | 318 |
| | | 816 | | 798 | | 727 | | 839 | |

(昭和56年4月15日現在)　　福島県立安積高等学校進路指導部発表資料より

# 今後の桑野会

74期卒　武藤一駿

安積高校を卒業して10数年後に初めておやじ（42期武藤一佐久）と東京桑野会に出席してみました。

正直言ってそれまでは、同窓会というと、功成り名とげた大先輩達が、暇にまかせて良き時代、若き日をしのぶ敬老会の一種といったイメージを抱いていました。それが、一度のぞいてみようか、という気持ちになってきたのはやはり頭に白いものが目だち始めた年のせいなのかもしれません。

なつかしい安高時代の思い出話は、むろん楽しいものでした。しかし、出席してみてわかったことは、同窓会活動に熱心な先輩達が、昔話はすぐ尽きてしまう、何とか若い人にも参加してもらえるような魅力ある会にしなければ、と会の方向を模索しておられるということでした。

実際、70期以降の卒業生の姿はほとんど見られませんが、同じ高校を卒業したというだけで、知った顔もあまり見当らない会に、出ようという気にならないのは当然かもしれません。

この種の会では、例えば大学ラグビー部のＯＢ会などに、後輩の合宿を家族ぐるみ応援に行くとか、ＯＢの遺児の就職の面倒までみるなど、強い結びつきを示している例があると聞いたことがあります。ラグビーという共通の趣味で結ばれ、しかも会員の相互扶助という現実的な利益もあれば、確かに魅力的でしょう。

桑野会も、ラグビーに変る、何か会の核となり、会員をひきつける引力となるものをつくらなければならないと思いますが、さて具体的に何を、となるとこれはなかなか難しい問題です。

しかし、創立100年ともなれば、ありとあらゆる分野に人材を輩出しており、会に出席すれば、少なくともそれらの先輩に触れ、啓発される機会を得ることができることは確かですし、先輩も、若い人の息吹きに触発されること大であろうと思われます。

世代、職種を越えて、互いに啓発し合い、力を貸し合い、助け合う場とすることができれば、大変に有意義な会となりましょう。

その際、政治的な中立を保ち、特定の団体に利用されたりすることのないよう、注意することが大切なのはもちろんです。

どのような会に育てていくか、幹部や世話役に任せず、若い人におおいに知恵を出し、声をあげて欲しいと願っています。

# 親子二代にわたって

63期卒　鵜沼直雄

私共のクラスは安中62期、安高２期、そして63期と３つの名称がある。それはそのまま、私共の育った時期の大きな変動を示している。中学に入ったときは戦争の真最中、２年で終戦、学制改革、４年で旧制高校に進んだ者もあれば、中学５年がそのまま、新制高校２年と名称が変って３年で卒業と、さまざまな道をたどった。

もう一つの特徴は疎開組のいたことである。

疎開組とは戦争の爆撃などから避難して都会から移って来た学生のことである。一見よそ者のようにも思われるが実はそうではない。たとえば筆者の父は兄弟３人とも安積中学を出ているが、父は東京の会社に勤め、私は東京の中学に入った。しかし、戦争のため父の通っていたと同じ中学で学ぶこととなったわけである。父が教えを受けた先生が２人ともそのまま残っていて私をも教えた。親子２代にわたって教えを受けたことになる。２人の先生とはヤッペ（武知）先生と菊地冲之介先生である。

私共の学年の東京在住者は定期的に顔を合わせている。その名も安積会と名付け、10数年前から年１回、神田のとり料理「ぼたん」に集っているが、この料理屋も老舗であるし、何しろ「ぼたん」は須賀川の牡丹園を思わせてなつかしい。

さて、メンバーを紹介しよう。クラス順に敬称略。役職名も略。橋本伸一…第一勧銀。古川清…外務省韓国公使を経て法務省入国管理局。大河原（斉藤）一郎…富士銀行。越智（梅津）訓男…新日本実業東京研究所。影山博…鳩ヶ谷支役所。須賀磐雄…富士銀行川口支店。並木謙…不動産業。善方学…産婦人科開業。安藤礼子…輸入業。吉田弘…警視庁広報課。安藤朝昭…安藤調理士紹介所。遠藤利久…京浜建設産業。佐藤照…佐藤精機。塩谷喜久司…立教大学学務課。松津皓也…宇部日東化成。吉田俊夫…第一航空サービス。金沢譲太郎…ＮＨＫ。小針英典…東京市外電話局。鈴木淑雄…砂川高校。関

『心にふれる、
セールスプロモーション』のための
CIデザインを、
お引きうけしております。
105東京都港区海岸1-6-1-725
●TEL:03-432-0374
株式会社東京クリエイティブセンター
□代表取締役 石川照雄(64期卒)

根孝文…警視庁。矢部之男…日本科学技術情報センター。阿部和司…野村証券。大橋力雄…大橋会計事務所。大越道雄…三菱レーヨン。大津隆…オオツヤ。小幡春分…清水建設。菅野寿夫…辻田織物。撞井昭三…商工中金。富樫哲夫…横浜銀行。中城正男…劇団新芸術。西山健二郎…ユニテック。根本久雄…横浜市大。橋本良夫…日立製作所。山本充郎…和洋学園。渡辺徳栄…日揮。中野孝夫…日網石油精製。そして鵜沼直雄…三井記念病院消化器センターに勤務している。

## 49期生の紹介

49期卒　星　武夫

ひょんなことから、幹事に任命された小生にとって、会報第1号の執筆者が先ず、幹事からということは、文才のない身にとって迷惑千万という処である。何を書くか考えた末、49期生の概要を紹介することとして、その責を果すことにした。

我々は、不況下にあった、昭和7年入学であるため、その影響をもろに受け1組削減される組編成とされた。従って同期入学は約150名である。手元にある名簿によれば、卒業生は141名で内40名が死去されている。その大部分は戦場に散華された方々であり、生き残り同級生は101名と少数である。全員参集の同級会は2年か3年に一度と、あまり頻繁な方ではない。しかし名簿も時折は更新されるし、何かある時の連絡は良い。

一方、東京桑野会会員は、23名であり、ほぼ現在地を移動する恐れのない者ばかりである。居住地分布としては、都区内9名、神奈川5名、埼玉4名、千葉3名、茨城、山梨、各1名である。職業は、会社関係（社長も含む）12名、教育2名、医者2名、自営4名、其の他3名となっている。

集会としては、不定期ではあるが、年2回位、全員対象としての例会があるが、その他気の合った同志の小集会が、何かと理由をつけては行われる。例えば、花見、月見、雪見、そして暑気払等々である。会えば、飲む程に、酔う程に、談風論発、大いに天下国家を論ずると言いたい処であるが、それ程のことはない。ただ典型的な戦前派の集りであり、大半が軍歴を有するため、興到りて、軍歌に始り応援歌に移り最後は校歌でしめくくるのが通例である。しかし元気一杯に見えても還暦を過ぎた、と言う事実には抗し難く、常連である医者を囲んでの健康相談日的になってしまい、仲々本論に入れず、困る場合もちょいちょいある。従って今後相談回数の多い者は、会費割増制をとるべきか、思案中である。

桑野会のこともよく話題になるが、要は、大先輩から学生諸君に至るまで楽しく参加出来る会であって欲しいということであり、更に又、数年後に迎える100周年記念については、特に名案は出ていないが、若い世代の後輩諸君の斯新なアイデアと実行力に期待し、心に残る記念行事にして欲しい、というのが結論らしいものであった。

とにかく、何時までも若く、活気ある桑野会であることを祈念し、筆を置く。

## 67期の皆さんへの呼びかけ

67期卒　水口　禎

何年か前、当時建築界でも話題になっていた母校校舎の保有問題に職業がら興味を持っていたところ、新聞で東京桑野会総会開催を知って出席して以来何となく毎年出ているうちに、同期で誰もいないものだから幹事役を仰せつかってしまいました。その上ともあろうに、この類の会では永遠の事業ともいわれる名簿の係というわけです。

ところが他の卒業年次の学年と違ってわれわれの学年には目下のところ資料が殆どないという状況です。昭和47年度「東京桑野会名簿」と昭和49年度「安積桑野会名簿」では現在あまり機能しないようです。たまたま私のところにないだけで、どなたか何か資料をお持ちでしたら御協力をお願いします。

郡山の友人に問合せてもあまり興味を示して頂けなくて困っております。毎年各期毎にまとめて安積桑野会（同窓会本部）に納入すべき会費のノルマも、われわれの学年は相当長い間にわたって未納という不名誉な記録をつくっているらしいということがわかった程度です。

私自身学年全体にわたっては把握できませんので、卒業時の各クラス単位で誰か世話人を選んで頂いて情報を収集して、少しは名簿らしいものにしていきたいと思いますので、東京桑野会総会等への御参加とともに御協力をよろしくお願いします。

たまたま十代の後半の3年間同じ時

医療法人
有隣会南浦和病院
336 浦和市太田窪1973　☎0488－85－5307
□理事長・病院長・医学博士　矢吹陸郎　(45期卒)

期に同じ学校で過したということをよりどころに徒党を組むというのも「安積」の卒業生たる知識人（？）のやることではないかとも思われますが、そこはまあ固いことをいわずに、年一回くらいは集っていろいろ語り合うのもいゝのではないかと思いますがいかゞでしょうか。

旧制中学校の先輩たちよりは「安積」に在籍した年数からして短いし、諸先輩のような強い絆の意識はないかも知れませんが、卒業してすでに28年にもなりました。高校卒業したての世代も東京桑野会への参加もあまりないようですが、長老である大先輩との中間の世代として会のもりたてをはかれたらと思っております。

以上のようなわけで、この会報自体もあまり皆様のお手元に届かないこと恐れるわけですが、少しづつでも輪を拡げて行きたいと思います。

連絡先　帝人殖産 tel.(03)506－4903.
自宅tel.(0471)45－8293

# 名簿の憶い出とわが58期

58期卒　池田和男

昭和40年頃であったと思う。私の近所に住む土屋先輩（57期）を訪ねた。その自宅が近いということを、その頃知ったからである。ところが、それが運のつきであった。「東京桑野会の名簿を作りたいから手伝って欲しい」というわけである。そのときまでは、名簿と呼ぶに値するものはなかったらしい。

今なら時間の都合もつくので、よしやりましょうと引受けたが、それからが大変であった。資料となるものは、東京桑野会開催通知に対する返信はがき若干と、数期の同級会名簿そして何年か前の安積桑野会名簿（本部発行）である。そこで、資料の整理を進めながら各期の重立った人々に電話をしたり、或は訪問したりして、集めた消息は約900名分であった。校正刷りの段階でも修正と追加で出て来る。それが多いので印刷屋と大部もめた。題字は大先輩（11期）の橋本万之助氏にお願いして書いて貰った。壁谷会長と２人で訪問し、私が傍らで墨を摺った。

なお、東京桑野会々旗の文字もこの題字を使ったものである。

ともあれ名簿が出来上った。その年の東京桑野会は、一挙に140名の参集を得て盛会であった。その後は、全会員名をカードに記載して整理し、絶えず修正と加除を行って来た。名簿第２版が発行されたのは昭和47年になったが、そのときは鈴木健二氏（57期）と津野宣夫氏（65期）が中心でお骨折り戴いたので前記資料を引き継いだ。

さて、わが58期であるが、東京での最初の同級会は、たしか昭和32年の夏であった。今は亡き高橋俊郎君（弁護士）の肝煎りであった。卒業以来12年ぶりの再会である。忽ちのうちに昔の仲間に戻り、談笑に座が湧いた。その後は毎年開かれ、年２回のときもあった。40才を過ぎると年々参加者が増えて来る。

最近の同級会は、昨年11月に小平市にある日立電子(株)武蔵野寮で、旧師小塚光治先生を招待して催された。

## ●事務局から●

■かねてから懸案の東京桑野会会報の第１号を、お手許におとどけいたします。スタッフ一同本職の合間に仕上げたものですからなにかと不満の点もありましょうが、熱意ある奉仕に免じてお許し下さい。

■トツゼン原稿ご執筆の依頼を、主としてスタッフと幹事諸氏にお願いしました。しかも原稿料なし、さらに締切余裕なし……。心よくお書き下さった諸氏に誌上をおかりして深く感謝いたします。紙面と締切りの都合で割愛させていただいた原稿は次回に利用させていただきます。併せてご承知下さい。

■次回第２号の原稿もお願いいたしますが、有志諸氏どしどしと書き送っていただければ編集人として嬉しいことです。条件は下記の通りです。

①タイトルは12文字以内。
②文章はヨコガキで17字詰、33行。
　又は17字詰、72行。のいずれか。
③卒業期、現職も併せて記載。
④締切日、57年４月20日。（厳守）

■広告掲載および広告紹介斡旋にご協力下さった方、誠にありがとうございます。会報は広告費収入によって出来上るものです。ご奉仕に感謝しております。併せて他の同窓生諸氏にも強力なご協力をお願いしたいのです。

●ひとわく 30,000円

■57年４月15日、午後６時開催の椿山荘での総会には、万障お繰り合せの上ご出席されることを望んで止みません。

■年会費1.000円をお忘れなく。 欠席の方は同封の振替用紙をご利用下さい。


帝人殖産株式会社
●高層住宅●等価交換●分譲●仲介●
●東京本社●〒100 東京都千代田区霞が関1-4-4 ☎(03)506-4903
□東京建設部長兼開発部長 水口禎（67期・高校６期卒）